

ExtraNews @ ラオス

「今日は参加者が6人、男子4人、女子2人だけだった。ゆっくり指導できました。ベトナムで教えていたときも10人以上になると結構しんどかったな。なにせ柔道を全く知らない素人で、おまけに言葉の壁があるし。」(ブログ「ラオスでの柔道場の開設」より)

この度TMR Cに子供用柔道衣の寄付があり、寄贈先を探しているところ大道さんのサイトと出会った。現在ラオスで植林プロジェクトを進めている王子製紙の社員、大道隆さんは柔道三段。ベトナムに赴任していた頃のノウハウを生かし、首都ビエンチャンから4時間ほど南に下った、新たな職場のカムアン県ソンホン村でも、柔道場を開設し地域人々に柔道を教えている。ベトナムクイニン市で柔道場を開いたのが1997年3月、今でも現地の弟子達が汗を流している。ソンホン村に来たのが2007年7月、早速道場を開こうと動き出したところ、本社から畳の購入費と運搬費用の支給を受けられた。9月初め隣国のホーチミンから柔道用の畳50畳が到着し、会社の一室を借りて植林事業のスタッフ達が集めてくれた村人と「カムアン道場」がスタートした。多いときは20人以上集まり、当初週2回開いて指導したが受け身を教えるのにも苦労した。ラオス各地にある柔道場と交流するようになり、週末は試合にも参加するようになった。08年9月には東京で開かれたアジアジュニア大会にラオス代表として教え子が2人出場した。将来世界選手権に出場するような選手の育成を目指しているという。

連絡を取ると、「子供が多く習いに来ているので大変ありがたい」と、喜んでいただいた。スポーツは国境を越え、汗と笑顔を輝かせる。

カムアン道場で教え子達と→



「アジアの子供達に未来を」常時ご寄付を集めています。

- ・名義「特定非営利活動法人 T・M良薬センター」
- ・銀行「群馬銀行本店 普通 2134150」
- ・郵便局「00160-5-591781」

表紙写真／ミャンマー・ボガレイ サイクロン孤児の様子
印刷協力／群馬県沼田幼稚園

ロンボークラブ 14



T・M良薬センター ニュースレター

ミャンマー／カンボジア／ネパール／ラオス



「あたりまえをあの子にも」

ニュースレター第14号
平成21年 正月10日
T・M良薬センター事務局
Tel&Fax : 027-254-2325
E-mail : office@tmrc.jp
<http://www.tmrc.jp>

ミャンマープロジェクト

サイクロン その後

昨年5月南沿岸部を直撃したサイクロンにより、ミャンマーの“米倉”に200万人以上の避難民があふれた。TMR Cでは蚊帳や栄養剤など物資の支援を続けてきたが、その後の調査で仏教寺院に多くの“みなし子”が集まってきている、との報告を受けた。現地仏教会と連携して新たな局面を迎える。

お寺に集まる孤児

ミャンマーでは、幼少時にお寺に預けられ、ある期間僧道生活（出家）をする習慣がある。そのまま僧侶になる人もいれば、社会に戻る人もいる。ほとんどの男性は出家経験があり、最近では幼い尼僧の托鉢もよく見かけるほどだ。この国で行き場を失った孤児が、寺院に集まるのは不思議なことではない。被災直後から現地の各寺院に沙弥（子どもの僧侶）が増え続け、対応に苦渋した住職達から緊急支援要請を受けた。



7月末に理事長が現地入りし、被災地の寺院の窓口であるウ・ダマタラ師から調査報告を受けた。「最も被害が甚大であったボガレイで100人以上の孤児を収容しているヤダナ・サンパヤ寺院を最初に助けてほしい。」孤児達は極めて困窮した状態にあるという。事態は緊迫している。



ネパールプロジェクト

参加型仏教国際協力

その昔、隣国の侵攻を受けてカピラバストゥから逃れてきたお釈迦さまの一族が、現在10万人ほどネパールでひっそりと暮らしている。その多くは首都カトマンズの南に位置する古都パタンで、代々仏像や仏具を作って生活の糧とし、仏教寺院を護ってきた。貧困に苦しむ釈迦族を日本から応援したい。

●T・M良薬センターではシャカ族の生活支援のために手作りの民芸品を現地から取り寄せて販売しています。ご協力お願いいたします。

●「テムちゃん」人形



ネパールに古くから伝わる毛糸のお守り。人の形をしている。母親が子どもに持たせたりする。元来黒糸で作るが、日本販売用に全10色にした。色別に種々の願いが込められている。携帯ストラップになる愛らしいお守り。

●「シャカ族の香盒」



空圧で開閉するこだわりの一品。銀製(925) 手作り 桐箱付き
直径5.3cm 深さ2.5cm 重量54g
宗紋、山紋等刻印可能
取り扱い店：身延山「松司軒仏具店」

●「ダルマチャクラ」

法輪をモチーフにした飾り物。手提げバッグや携帯電話、車内にも付けられる。アクリル糸とビーズと針金できている。10cm程度。日蓮宗新聞社で好評販売中。



完成間近のサッダルマ・リピサーラ(妙法学校)第2校目 「アントマイ校」

昨年9月に実施した1校目の落慶式ツアーの際に、「我々の村にも学校を！」と、噂を聞きつけたアントマイ村の住民全員から陳情書が提出されてから半年。2009年3月落慶予定の本校は5教室コンクリート平屋建て。



本校に通学する子ども達に藤岡市内の小学校から譲り受けたサッカーユニフォーム&ボールをプレゼント。胸には神流小学校の文字が。アジアでもサッカーが大人気。藤岡市とのジュニアサッカー交流も計画中。

※「アントマイ校」落慶式スタディーツアーの予定 2009年3月4日～9日 参加者募集中

第3校目

「アジアの子ども達に学校を贈る会」がドナーとなる3校目は、モハーリ村で建設中のこの校舎。貧困地域のため途中で頓挫し、資金繰りに困窮していた。ちょうど同会が集めた資金で残りの工事を進められそうだといいことで、この度支援が決定した。予定よりも数年早くアジアの友達に学校を贈れるということで、藤岡市の生徒達が喜んでいる。

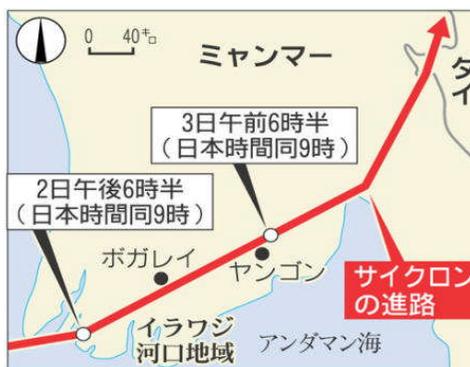


〔ボガレイの様子〕



ボガレイはイラワジ川下流の大デルタ地帯にある主要な町の1つ。当時軍事政権は死者数が全土で1万人に上るとの見方を伝えたが、ボガレイ町の死者数が明らかになり、犠牲者数を大幅に修正した。

中心地は浸水し、茫然自失する住民。



家族を失った子ども達はかつてお世話になったお寺を訪ねた。ヤダナ・サンパヤ寺院はボガレイに住む人々の拠り所である。ウ・アセインダ住職は村人達と協力して生き残った孤児達を保護したが、物資がつきるのは時間の問題であった。早速救援資金をウ・

ダマタラ師に託し、翌日同師は物資を調達、ボガレイを訪問しウ・アセインダ住職に状況を伺った。

ヤダナ・サンパヤ寺院に8月新入した子供のうち、両親を亡くした子は24名、父親を亡くした子は11名、母親を亡くし

時速200Kmの強風に村ごと飛ばされた。道に敷かれていた赤いレンガが残っているのがわかる。最大被災地とされるエヤワディ(イラワジ)管区ボガレイだけで約1万人が死亡したとされる。

た子は9名で、全体では100名近く保護しているとのことであった。(↓ヤダナ・サンパヤ寺院内 孤児収容施設の様子)



同寺から戻ったウ・ダマタラ師と検討を重ね、ウ・アセインダ住職とも連絡をとり、すでに孤児院の形をなしているので、この運営に、日本の仏教関係の有志と、ミャンマー仏教界の有志とで協力をし、寺内学校として認可も受けようという方針が定まり、ウ・

ダマタラ師に代表になってもらい、「ヤダナ・サンパヤ孤児院」の運営委員会を立ち上げた。

アセインダ住職(真ん中)を訪問するダマタラ師(右)



10月末にはウ・ダマタラ師が来日し、国内で支援の協議を重ねた結果、日蓮宗がドナーとなり孤児院「サッダルマ・リピサーラ(妙法学校)」を建設することが決定した。両国の

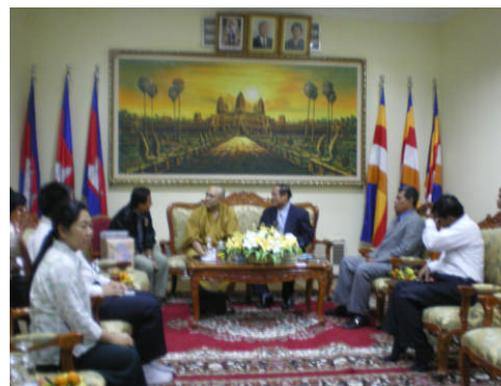
仏教交流と同時に、世界各地で支援を装ったキリスト教の侵食が進む中、仏教全体の興隆につながる意義深い事業になるであろう。1月14日に宗務院にて贈呈式が行われる予定。被災地の寺院を代表してウ・ダマタラ師が受け取る。



カンボジアプロジェクト

「妙法学校」第2校目 完成

貧困地域子ども達のために学校を建てる「サッダルマ・リピサーラ(妙法学校)プロジェクト」で、昨年6月に落慶式を行ったトラング地区校に続き、東大阪市宝樹寺の和田龍昌師がドナーとなって建設中の第2弾「妙法学校」、アントマイ・パゴタ校が完成間近だ。完成に伴い2009年3月4日～9日、落慶式ツアーを実施する予定。



12月4日～6日、同事業担当の新井恵裕会員が現地を訪問し、アントマイ・サッダルマ・リピサーラ校の進捗状況の調査と合わせ、3校目の建設場所を選定した。

宗教省にて本事業の窓口になっているキン・ミン大臣と会谈

○第3校目のドナーについて

2年前から群馬県藤岡市内の生徒達が国際協力を志し、「アジアの子ども達に学校を贈る会」を発足。リサイクル品を集めるなど、現在では大人がバックアップし町をあげて活動している。1校舎建設のためには道のりは長いと思われたが、この度良い縁を得て、今年度には実現できそうだ。

この活動を開始するに併行して藤岡中央高校は新たに、ボランティア活動を目的とした部活動、「インターアクトクラブ」を設立した。部員は年間を通してチャリティーイベントの企画・運営・協力に東奔西走している。また市内にはボランティアセンター「ウィズ」が実働し、ボランティアの啓蒙活動が活発だ。